

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-7 1

学校名・団体名	志摩市立志島小学校
HPアドレス	なし
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	新聞で地域とともにある学校づくり
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>① 学校だよりや新聞等メディアを通して、子どもたちの元気な姿を地域に発信することにより、地域の活性化を図るとともに学校と地域との連携を強化する。</p> <p>② 新聞活用学習、取材、新聞づくりを通して、児童の言語能力、コミュニケーション力の向上を図る。</p> <p>③ 児童、教職員、保護者、地域住民、関係団体などの参画をもとに、地域プロジェクト新聞「はいじゃ志島」を発行することにより、地域とともにある特色ある学校づくりを推進する。</p>	

テーマ 新聞で地域とともにある学校づくり

平成30年に近隣4校との統合をひかえて、子どもたちが「地域の宝」として大切にされている本校区の良さを見直し、統合後も地域に愛着を持ち地域を支えていける子どもたちを育てたいと考え、新聞を活用して以下の取り組みを行った。

1. ねらい

- ① 学校だよりや新聞等メディアを通して、子どもたちの元気な姿を地域に発信することにより、地域の活性化を図るとともに学校と地域との連携を強化する。
- ② 新聞活用学習、取材、新聞づくりを通して、児童の言語能力、コミュニケーション力の向上を図る。
- ③ 児童、教職員、保護者、地域住民、関係団体などの参画をもとに、地域プロジェクト新聞「はいじゃ志島」を発行することにより、地域とともにある特色ある学校づくりを推進する。

2. 発信

①学校だより「志島小だより」の全戸配布

- ・月2回発行、A4版で両面カラー刷り。自治会を通して地区内全280戸に配布。
- ・学校の経営方針や教育活動のねらいをわかりやすく表現するとともに、子どもたちの顔や名前が見える通信にするよう心がけている。
- ・学校行事や地域との連携行事への参加を保護者や地域住民に呼びかけ、開かれた学校づくりにも役立てている。

②新聞等メディアへの情報提供

特色ある教育活動について新聞やテレビ等メディアに積極的に情報提供を行い、子どもたちの元気な活動の様子を地域内外に知らせる。「われらが学校」の記事を新聞等で見つけることは、地域住民にとってこの上なく喜ばしいことであり、子どもたちの元気にふれることで地域もまた元気になると考える。

3. 豊かな言語力の育成

①新聞活用学習の推進

全国学力学習状況調査の結果からも、子どもたちに豊かな表現力、コミュニケーション力を身につけることが必要であることが明らかになった。新聞は語彙力・読解力をつけたり社会的視野を広げたりするのに格好の教材でもあることから、辞書引きの課題に新聞記事を使うなど、新聞を活用した学習に全校で積極的に取り組むことにした。また、最初はどこからどこまでが一つの記事かわからない低学年の子も、気に入った写真を切りぬいたり新聞クイズに答えたりすることで、回を重ねるごとに難しい漢字があっても大意をつかむことができるようになってきた。

②夏休み・冬休み新聞教室の実施

夏休み・冬休みの長期休業中に、希望者を対象にした「新聞教室」を実施した。夏休みは「新聞クイズ教室」。直近1ヶ月ほどの新聞から、好きな記事を切りぬく。次にその中から特に気に入った記事を選んで読み取ったことをクイズにしてワークシートを作る。できあがったワークシートは、新聞社のワークシート募集に応募したりコピーして校内に掲示したりした。全校から45名のうち12名が参加したが、本文だけでなく見出しや写真から読み取ったことをクイズにしてもよいので、学年や個人の力、興味関心に応じて楽しく活動することができた。また低学年でも、新聞を媒体として自分が読み取ったことを表現できることが確認できた。

冬休みは「新聞切りぬき作品づくり」。2~3人のグループに分かれて、本事業の助成により定期購読している各紙から切りぬいた記事をテーマに沿ってレイアウトを工夫して並べる。タイトルやコメントを書き、まとめや感想を記入して1つの新聞切りぬき作品に仕上げた。この新聞教室には全校45名のうち17名が参加し、そのうち12名は1、2年生であった。特に低学年に新聞活用学習の楽しさが広がりつつあることをうれしく感じ

ている。

③新聞が身近にある環境づくり

新聞は、子どもと地域社会とをつなぐ窓口であると考えて。視野を広げ思考力、判断力を身につけるためにも常に身近に置いておきたい。そこで3紙を定期購読し、地域の有志から寄贈されている小学生新聞とともに、図書室やろうかに新聞コーナーを設置して、子どもや教職員が常に新聞を手にとれる状況をつくっている。教職員にも新聞活用の意識が広がり、大きな事件やできごとがあったときには新聞をもとに、教室で担任が話をしたり、各紙をくらべ読みしたりするなどの場面も見られるようになった。

4. 参画交流

①地域プロジェクト新聞「はいじゃ志島」の発行

学校と地域の連携を強化し、一体感を醸成するために、新聞印刷機能を備えた中日新聞社の「ドラゴン号」を活用し、A3版両面カラー刷りの地域プロジェクト新聞「はいじゃ志島」を年3回、発行することにした。発行責任者（校長）や新聞記者をはじめ教職員・児童・地域住民などが編集に関わることにより、みんなで地域の良さや課題について考え、地域活性化への意識を向上させていくことがねらいである。

②子ども記者体験

「畔志賀塾」は漁業への就業希望者の移住と後継者育成を意図して地域の漁協が中心となって設立された漁業塾である。その背景には日本あるいは地域の漁業の課題があるが、そうした地域の課題に子どもたちの目を向けさせたいと考え、「はいじゃ志島」第2号の発行に向けて「夏休み子ども記者体験」を実施した。1. 2. 4. 5年の希望者10名で地域の漁師塾「畔志賀塾」のあま小屋を訪問し、地域の漁業の様子・課題について子どもの目線で取材した。子どもたちはこの取材体験を通して、何をどんな風にとるのかも知らなかったあま漁の様子を知り、地域で漁業に携わる人たちの思いにふれることができた。



「畔志賀塾」取材風景

5 子どもや地域の変容と今後の課題

①子どもや地域の変容

- ・学校だよりやテレビの放映が地域で話題になることが多く、学校と地域との距離がより近くなった。
- ・地域新聞づくりを通して新聞を媒体とした地域との一体感が生まれた。また、子どもたちの地域の現状や課題への意識が高まった。
- ・子どもたちや教職員の言語感覚が豊かになり、表現にバリエーションが生まれたり、学力の向上につながったりした。

②今後の課題

- ・地域プロジェクト新聞への子どもたちの参画の機会を増やし、子どもたちから地域へ発信できるようにしたい。
- ・どの学年でも興味や関心、子どもの実態に応じて新聞活用学習ができるよう、カリキュラムづくりと学習環境整備に努めたい。